

1. 件名：東京電力福島第一原子力発電所の事故分析に関する面談
2. 日時：令和3年6月30日（水）16時00分～17時00分
3. 場所：原子力規制庁 6階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

岩永企画調査官、星主任技術研究調査官、木原室長補佐、佐藤（匡）室長補佐、（以下、テレビ会議システムによる参加）佐藤（雄）管理官補佐、

東京電力ホールディングス株式会社

福島第一廃炉推進カンパニー プール燃料取り出しプログラム部

担当者 6名（テレビ会議システムによる出席）

福島第一廃炉推進カンパニー プロジェクトマネジメント室

担当者 1名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

○冒頭、原子力規制庁より、福島第一原子力発電所2号機のシールドプラグコア抜きに向けた検討状況として、令和3年6月14日の面談において東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）から提案のあった直径が大きいコアを穿孔した場合のオペレーティングフロア（以下「オペフロ」という。）床面の線量影響について言及した。

○東京電力から、以下の説明があった。

- 早急に測定を実施する場合は、既存の穿孔箇所を活用して測定を実施し、更なる調査を必要とする場合は、2号機オペフロの線量低減措置が完了した後、有人作業でのコア抜きを実施することも考えられる。

○これに対して、原子力規制庁は、以下の点を伝達した。

- 既存の穿孔箇所を活用した測定について、なるべく早い時期に実施すべきと考えている。
- 新たなコアを穿孔した上での測定等、既存の穿孔箇所を活用した測定以外に実施可能な測定については、東京電力福島第一原子力発電所における事故の分析に係る検討会において議論すべきと考えている。

6. 資料

なし

以上